

# 視 察 報 告 書

報告者氏名：伊関 功滋

委員会名：教育福祉常任委員会

期 間：令和元年 10 月 23 日（水）～25 日（金）

視察都市等及び視察項目：

市川市：市川市立塩浜学園の小中一貫教育の取り組みについて

広島市：認知症高齢者等保護情報共有サービス

（QRコードシールの活用実態について）

西条市：小中学校 ICT 教育推進事業について

所 感 等：

## ◆市川市

面 積：56.390km<sup>2</sup>

人 口：490,322 人（令和元年 10 月 31 日現在）

世帯数：246,639 世帯

市制施行：昭和 9 年 11 月 3 日

## ◆市川市：市川市立塩浜学園の小中一貫教育の取り組みについて

千葉県市川市立塩浜学園に公立学校の小中一貫教育の取り組みについて話を伺った。塩浜学園では、平成 27 年度から小中一貫教育を導入して、翌年には義務教育学校へ移行が行われた。塩浜学園の先進事例をお聞きした。

塩浜学園の学校経営方針

義務教育学校「市川市立 塩浜学園」として 9 年間の豊かな「学び」と「育ち」をつなぎ、系統性・連続性を重視した教育を行うとともに 小規模校の良さを十分に発揮できる学校を目指す

（1）子どもの発達段階を理解し一人ひとりの子どもを大切に  
する学校

（2）教職員が協働で学校づくりに参画し教育活動に邁進する学校

（3）保護者・地域から信頼され地域の教育力を学校の教育活動に

生かすことのできる学校を掲げている。

また、7つの特色ある学びとして、

一貫教育を生かした特色ある学び

1 学年の区分を4-3-2制にします

2 系統性・連続性を重視した教育を行います

3 Mブロック（5年）から教科担任制を導入します

4 Mブロック（5年）から部活動に参加できます

塩浜学園の3つの特色ある学び

1 塩浜ふるさと防災科を実施します

（市川市教育委員会 教育課程特例指定）

2 理数教育を充実させます

3 きめ細やかな教育を推進します

そして、学校経営の3本の柱として、1：小中一貫教育、2：コミュニティスクール、3：小規模校によるきめ細やかな教育を実践している。

質疑の中で、やはり小中一貫教育の取り組みにより、「中一ギャップ」はほとんど存在せず、いじめや不登校に結びつきにくいとのことだった。9年間を一貫通貫として学校経営や教育指導に当たっている結果であり、高学年が低学年の世話をするなど高学年の自我意識の醸成にもつながっていると感じた。

現在、新校舎を建設中だが、完成後本当の意味での一貫校の実践が行われることになる。是非、またその時には視察に伺いたい。

本市でも小中連携教育を進めているが、現状では塩浜学園のような効果は出ていないように感じた。早期に試験的に指定校を設定して今まで以上の小中連携教育を進めるべきである。



#### ◆広島市

面積：906.68km<sup>2</sup>

人口：1,195,960人（令和元年9月末日現在）

世帯数：568,931世帯

市制施行：明治22年4月1日

### ◆広島市：認知症高齢者等保護情報共有サービス (QRコードシールの活用実態について)

認知症高齢者の徘徊が課題となっている中、広島市では、認知症高齢者等保護情報共有サービスの事業を導入し対応している。



認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう、徘徊が繰り返し発生する認知症高齢者等について、「どこシル伝言板システム」を活用して、身元確認や引き渡しを円滑に行うサービス。認知症高齢者等に、スマートフォン等で読み取ることのできるQRコードが印字されたラベルシールを交付し、当該認知症高齢者等が徘徊行動により身元不明者として保護された場合に、発見者がQRコードを読み取ることで、発見者と家族等が対象者の安否情報等をインターネット上で共有し、身元確認や家族等への引渡しを円滑に行う。

今回、制度の説明を受けたが、まだ導入してから日にちが浅く課題の洗い出しを進めている途中であり、今後の精度向上に期待する。認知症高齢者の徘徊の課題は、喫緊の状況であり、広島市の施策は安価で導入しやすい方式に感じた。

これから高齢化する中、対象者の増加が見込まれている。その対応のため、本市でも様々な施策を行っているが、その活用者が伸び悩んでいることが課題と認識している。認知症高齢者の徘徊について、色々な政策を進めることで、一人でも多くの方が利用することを期待する。



### ◆西条市

面積：509.98 km<sup>2</sup>

人口：109,071人（令和元年10月末日現在）

世帯数：50,699 世帯

市制施行：平成 16 年 11 月 1 日

#### ◆西条市：小中学校 ICT 教育推進事業について

西条市では、学校現場における ICT を利活用して、教育の質を高め、子どもたちの学力を向上させる事業を展開している。その一環として、市内の全ての小・中学校の普通教室等に電子黒板などを設置する事業「小中学校 ICT 教育推進事業」を平成 27 年度から実施している。手書きの良さ、じっくりと辞書を引く



ことも今までと変わらずに大切なことであり、デジタルとアナログ、それぞれの良さをしっかりと使い分けながら、西条市の将来を担う子どもたちの「学力の向上」ひいては「子どもたちの生きる力」を育てている。

西条市は、合併により都市部と中山間地域の格差を是正するためにも ICT を活用している。地域のコミュニティを守るために公立学校を活用している。そのため小規模校の維持も進めており、ICT 教育推進は重要な役割を果たしている。

また、民間企業とのタイアップも積極的に活用し、人材の派遣や教員の支援なども行っている。その結果、学力向上・教員の多忙化の削減などにも結び付いている。

本市でも学校の ICT 化の推進を行っているが、中々、効果が出ていないように感じている。教員によって温度差があり、昔ながらの教育の在り方から脱却できないでいる。教員の意識改革も必要ではないか。

また、行政にありがちだが、新しいことを率先して導入することに抵抗感があり、もっとチャレンジをしても良いと思う。西条市のように ICT を活用した教育を進めることで、本市の子供たちのプログラミング的思考を育むことができると考える。全国の学力トップの秋田県の小学校で



も様々な創意工夫をしながら子供たちのやる気を喚起することに努力している。本市でも、もっとできることはないかと思う。

以上